

発達障害のある人の青年期の課題とその支援について

井上雅彦
兵庫教育大学

HP <http://www.edu.hyogo-u.ac.jp/mainou/>

BLOG <http://aba.jugem.jp/>

発達障害のある子どもたちの認知的特徴

- 知的能力の高さ／偏り
- 記憶や注意のアンバランス
 - 記憶力が高い場合も知識が偏っていたり関連づけられない場合もある
 - 一度に複数のものに注意を向けたり配分することが困難
- 情報処理(同時的処理・継時的処理)のアンバランス
 - 同時に複数の手がかりを把握すること
 - 時系列に生じる一つ一つの出来事を統一的に捉えること
- 推論や情報の統合化の困難
 - いくつかの手がかりから意味を読み取ることが難しい
 - 要約したり要点をまとめることが困難

発達障害のある子どもたちの認知的特徴

- 実行機能・計画性の困難
 - 複数の課題を並行して行うことが苦手
 - ルールはわかっても実際場面で応用できない
 - テスト勉強をどのように初めてよいかわからない
 - 見通しを立てて勉強できなかったりするため途中で終わってしまう
- 整理整頓の困難
 - どのように整理すればよいかわからない
- 柔軟な問題解決の困難
 - 人に聞いたり頼むことが困難(気づかない・一人でやろうとする)
 - 一つの原則やルールを学ぶと他の場面でも機械的に当てはめてしまう

発達障害のある子どもたちのコミュニケーションの特徴

- 表情・しぐさ・視線・对人的距離などの非言語的コミュニケーションがうまくとれない／読み取れない
- 会話への入り方がわからず不自然な入り方をしてしまう
- 相手の様子を気にせず自分の興味のある話をし続けてしまう
- 自分の興味のない話題であっても相手の話題にあわせて共感したり、適切に質問したりすることが苦手
- 字義通り意味を理解してしまうため皮肉やジョークが通じない／理解できない
- 文脈が読めないため不適切な場面でジョークをいってしまう
- 常識やマナーの学習が自然に身につくにくい

発達障害のある子どもたちの感覚の特異性

過敏性と鈍麻が同居している状態
視覚、聴覚、触覚、痛覚、嗅覚、味覚、温感
生理的感覚など
個人によって異なり、状態によっても変化する

発達障害のある子どもたちの運動スキル

不器用さ・スピードや力の調整困難
体力持久力の乏しさ
協応運動の困難など

様々な二次的障害

- いじめや強い感情的な叱責による過剰な反応／フラッシュバック
- 失敗／予定変更／他者の視線への不安に対する癩癪
- 不安や嫌悪事態での激しい興奮や攻撃
- うつ症状

発達障害のある人の青年期の課題

- 就労
- 余暇
- 対人関係・社会性
- 生活スキル
- 性教育
- 健康管理
- 自己権利擁護

学校教育の中での配慮のポイント

- すべての教師が障害の基本的特性を理解すること
- 関わる教師は本人独自の特性を理解すること
 - 小中連絡会議、引き継ぎ会議などの仕組みを見直す
 - 書類による引き継ぎ
- 各教科での支援の連携を密にする
 - 学年会の活用
- 本人にあった支援を工夫すること
 - 本人や親に過去の支援を尋ねる
- よい点や頑張っている点をほめること

学校教育の中での配慮のポイント

- 自分の特性(良いところ・苦手なところ)に気づかせる
 - 未診断や障害告知していない場合でも苦手なことに対して対処法を身につけさせる
 - 親以外の相談相手を確立する
 - 自分の困難を常に人のせいにならないようにする
- 友人や異性とのつきあい方を教える
 - うまくいかない理由について気づくとともに対処法を教える
 - 対人関係のマナー
 - 携帯メールのやりとり
- 情報モラル教育
 - 情報社会特有の被害やトラブルから自分の身を守り、被害者にも加害者にもならないよう
 - 能力や技能の向上を支援をすること

具体的支援の例

- 細かな時間割を事前に示す
 - もちもの・服装
 - 教室移動
 - 変更の可能性とその理由
- 授業準備
 - 机の上にあるかチェック
- プリント類
 - 回答欄の大きさ
 - 字の多さ、字間、行間、書体
- ノートテイク
 - 極端に遅い場合
 - 書き写しが困難な場合
 - 要点をまとめられない

- 係や委員会など
 - 役割やローテーションを視覚化する・自己チェックさせる
 - わからないときや困ったときは誰に聞くかを明確にする
- 苦手教科や苦手教師・苦手な友達・先輩への対応
 - 誰に相談すればよいかを明確に伝えておく
 - 相談に行ってもいないときにはどうするか
- 宿題
 - 口頭で言わない
 - 書き取ることを減らす
 - 忘れないようなチェック
 - 量やレベルの調整
- テスト
 - 抜き打ちは恐怖
 - できないことをしからない・脅さない
 - 感覚過敏な場合の配慮

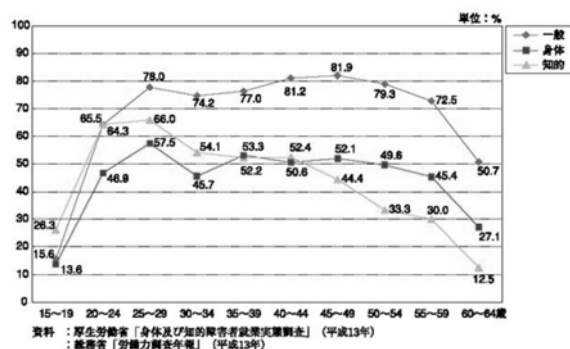
- 部活や休み時間
 - いじめやからかいの対象になっていないか
 - 安心して過ごせる場所
 - サポーターをつくる
- 体育
 - 強い失敗経験・苦手意識
 - 怒鳴り声・体育教師などへの恐怖
 - ルールがわからない
- 行事
 - 前もっての練習
 - 十分な予告
 - ビデオなどの提示
- 進路指導
 - 希望だけでなく特性を配慮する
 - 生活スキルがないと下宿生活に困難をきたす

- 異性や友人、先輩とのつきあい方
 - 対人的距離
 - 話題や会話
 - 冗談とからかいの誤解
- 健康管理・生活
 - 清潔を保つことや身だしなみ
 - 家庭内で役割を持たせる
 - 性的行動の制御
 - 金銭管理
 - 交通機関、社会的資源の適切な利用
 - 保護者との連携
- 情報モラル教育

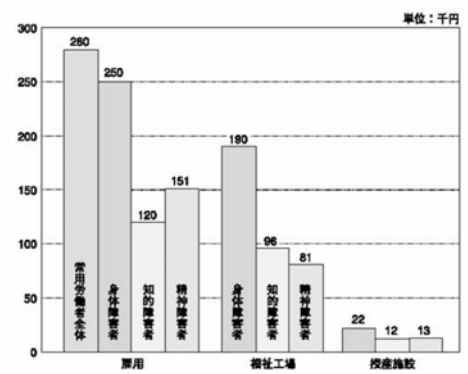
消費活動に関する困難性

- 出会い系サイト
- フィッシング詐欺
- キャッチセールスなど
- 人の心やその裏が読めないためにだまされやすい
- 断ることができない
- 連続的に被害にあう場合もある

●図表1-27 年齢階層別就業率



●図表1-33 賃金・工賃の平均月額



1990年全米障害者協会(National Organization on Disability)

- 雇用率は、重度障害者で21%、中軽度障害者で54%で障害者全体では35%となっている。これは障害のない人の雇用率78%にくらぶべくもない。障害者全体の雇用率についていえば、1986年に34%、1994年に31%、1998年に29%、2000年に32%、2004年に35%と推移してきている

必要なスキル

- 生活スキル
- 社会的スキル
- 問題解決スキル
- リラクゼーションスキル

アスペルガー症候群のある生徒の 生活スキルの課題

- 地域社会や家庭で自分だけで行う体験が少ない
- 自分の思いと実際の能力とのギャップ
- マナーや周囲の人との関係調整
- コミュニケーションの自信
- 一人暮らしへの不安
- キャッチセールスや訪問販売などの
だまされやすさ

生活キャンプらいふ☆シミュレーション でできること

- 本人
- 地域社会や家庭で自立生活を体験する
- 地域の中で生きた社会的スキルを学べる
- 自信をつける
- 自分の課題に気付き、動機付けをたかめる
- 家庭
- 子どもが現時点でできること、支援が必要なことを周囲が共通理解する
- 家庭での生活の中の課題が明確化でき、日々の指導の目標立案や指導の手がかりになる。
- 有効な支援や指導方法を周囲が共通理解する

“らいふ☆シミュレーション” プロジェクトの目的

- 1) 高機能広汎性発達障害のある人が一人暮らしをするために必要なスキルを検討する。
- 2) スキル獲得に必要な支援方法を検討する。
- 3) 簡単でわかりやすい支援計画を検討する。

初めての人もO.K!! “らいふ☆シミュレーション”参加案内

一人暮らしに挑戦したいけど、少し不安...らいふ☆シミュレーションは、そんなあなたを応援します!!

なんだか、とっても面白そうだわ☆私も参加しようかな〜


らいふ☆シミュレーションの内容

【説明】
一人暮らしを始めたら、デパートやコンビニエンスストア、商店街に出かけていって、生活に必要なものを自分で買ったりします。

時間	場所	活動内容
1日目		アドバイザーと改札口で待ち合わせ
10:00	新神戸駅	自己紹介をする
10:40	三宮駅付近	
11:00	昼食	
13:00	自由時間	三宮で行きたいお店に行く 神姫バスの停留所へ移動する
16:00	自由時間終了 三宮バス停留所	
18:00	社(社営業所)	社(社営業所)に帰る
18:10	買い物	夕食と朝食の食材を購入

19:00	大学到着 夕食準備	
20:00	夕食	
20:40	入浴&洗濯	
21:30	スケジュール お金の管理	明日行く場所を決める 今日使ったお金を計算して整理する。
22:00	就寝準備	
22:30	就寝	

みっしょん④



喫茶店からまんが喫茶まで、地図を頼りに移動せよ！

【説明】
昼食を食べて、お腹一杯になったかな！？さあ、今からが本番です。今いる喫茶店から、まんが喫茶まで、地図を頼りに移動してもらいます。

評価点

①自分でできた	20ポイント	□ ポイント
②スタッフに聞いた	10ポイント	
③ギブアップした	0ポイント	

みっしょん 課題分析

評価基準:①自分でできた ②手伝ってもらった ③ギブアップした ※あてはまる所に丸をつける

みっしょん①	①	②	③	備考欄(ポイントや改善点など)
パソコンを立ち上げ、新規メールを開く				
件名欄に件名を記入する				
送る内容(必要事項)を記入する				
送信先のアドレスを記入し、送信する				
みっしょん②				
路線検索のページを開く				
路線検索に必要な情報を入力する				
みっしょん③				
時間がないことを伝える。				
謝りながら断る。				
みっしょん④				
近くにいる人に接近する				
「すみませんが」といって、道を尋ねる				
お礼を言う				
みっしょん⑤				
夕食の食材を購入する				
朝食の食材を購入する				
支払いをする				

支援の実施

☆通常ミッション 26ミッション

- ・インターネット活用(路線検索・メール)
- ・移動スキル(電車・バス・タクシー)
- ・料理スキル(夕食・朝食)
- ・施設利用(まんが喫茶・スーパー・レストラン)
- ・自己管理(お金の管理・掃除・洗濯・入浴)

※通常ミッションはあらかじめ本人にミッション内容を伝えて実施した。

☆マル秘ミッション 5ミッション

- ・携帯電話からの指示に従って移動する(2回)
→待ち合わせスキル
- ・キャッチセールスのワナを回避する(2回)
→絵画教室の勧誘/お店の勧誘
- ・友達からの誘いを上手に断る(1回)
→時間がないときや都合が悪いときに、相手を嫌な気持ちにさせないで断るスキル

※マル秘ミッションはあらかじめ本人にミッション内容を伝えずに実施した。

ミッションポイント

☆段階的ポイント制(20P / 10P / 0P)

- ・20P獲得の条件
制限時間内に自分の力でミッションをクリアすること。但し、分からない場合にスタッフ以外の人に尋ねることは減点対象とはならない。
- ・10P獲得の条件
スタッフにヒントをもらってクリアすること。

評価の時点で、ミッション遂行にミスがあった場合は、評価を1段階下げて行う。(20P→10P)

社会的スキル訓練とは？

- ・社会的スキル訓練、社会生活技能訓練(Social Skills Training ;SST)
- ・1970年代、アメリカの精神障害リハビリテーション分野で発達
- ・わが国では、精神保健分野で1988年から実践、発展
- ・現在は、矯正教育や学校教育など多分野で実施されている

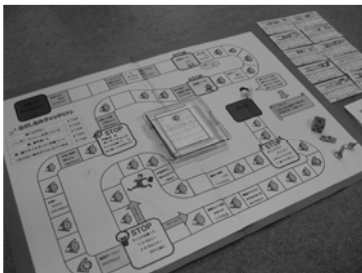
社会的スキルを身につけると・・・

- 相手からのよい反応を引き出す
- 自分に良い感情がおこる
- スキルの習慣化・定着
- 対人関係の改善
- ストレスの低下

福祉現場でSSTを実施する上での課題

- 専門性のあるスタッフが必要
- 時間的コストがかかる
- 効果の測定が不十分
- 般化の困難さ

ボードゲームの開発



- 就労に必要な対人コミュニケーションスキル
- 短時間で複数の対象者に実施
- 楽しみながら繰り返し実施

チャンスカード

1番・会社

風邪をひいて、会社にいきません。

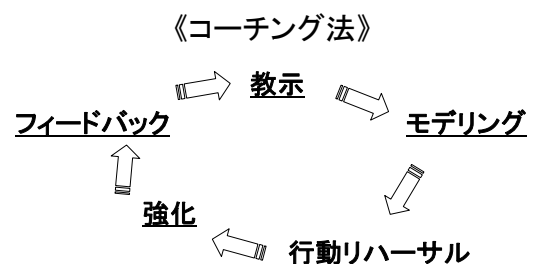
電話で何と言いますか。

もしもし、〇〇ですが、風邪をひいてしまったのですみませんが、会社を休ませてください。

チャンスカードの内容

カテゴリー	内容
マナー	朝の挨拶、部屋のノック、はさみの貸し借り
問題解決	荷物が重いとき、探し物があるとき
報告	トイレに行きたいとき、気分が悪いとき
お礼/謝罪	物を壊したとき、会社に遅刻したとき 誉められたとき

SSTボードゲームの主な流れ



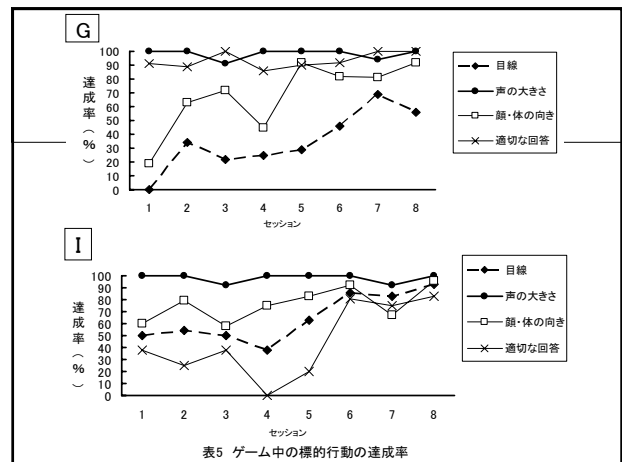
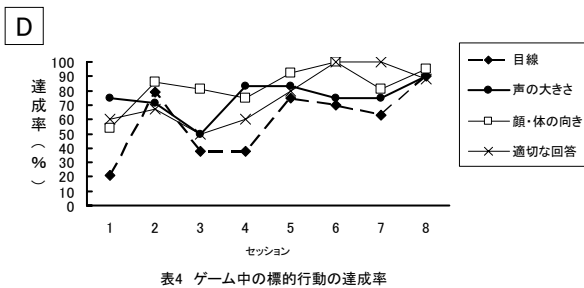
参加者のプロフィール

	診断名	性別	年齢	手帳
D	水頭症、知的障害	男性	21歳	B1
E	自閉的傾向、知的障害	男性	20歳	B1
F	知的障害	女性	21歳	B2
G	四肢運動障害、知的障害	男性	31歳	A
H	知的障害、自閉症	男性	24歳	B1
I	知的障害、自閉症	男性	20歳	B2

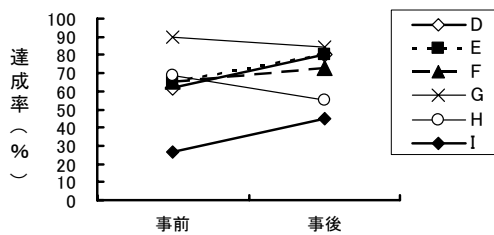
手続き

- ①事前評価
- ・設定場面の観察
(自己紹介場面、物の貸し借り場面、問題解決場面、報告場面)の6場面
- ↓
- ②SSTの実施
- ・トレーニング8回
- ↓
- ③事後評価 (①と同様)

結果



設定場面での変化



エピソードデータ

- D・・・職員の「何て言うんだっけ？」という声かけで「すみません」と声をかけることができた。
- F・・・家庭では最後まで話をするようになった。作業場面での声が大きくなってきた。
- H・・・就寝前に自分から家族にあいさつをした。事務室に入るとき、初めてノックをした。

「選択肢」

- また、対象者の中には、物事がうまくいかずに困難な状況の中で、決まりきった僅かな対応方法しか思いつかず、同じやり方で対応して同じ失敗を繰り返してしまう者も見られます。
- 何事にも多くの選択肢があり、考えてみることを学ぶこととなります。
- この際には、対象者のメンバーの状況に応じて、例えば、アイデアや思考を視覚化するマッピング等の技法も使うこともあります。

「結果予測」

- 「結果予測」は、将来や次にどうなるかを予測することです。結果を予測することに慣れていなければ、ある出来事にうまく反応することができず、結果としてその出来事からの学習ができないうまくやり遂げることができずに不安が増大することにつながる場合もあります。
- 新たな予測がつかない出来事や初めての職場実習等の新たな場面に対応していくためにも、結果予測を行う練習をすることが必要です。

「選択判断」

- 「選択判断」は、選択肢1つ1つについて、
(1)効果「その解決策で、望むものが得られるのか？」
- (2)現実性「それは、自分の力で実現できるのか？リスクはないのか？」
- を吟味していき、選択のための判断をしていくことです。

場面設定の例

- Aさんは、作業をしているときに、指示されたやり方を忘れてしまいました。そこで、やり方を再度聞きに行ったところ『何回言ったらわかるんだ。』と叱られてしまいました。
- Aさんは、『すみませんでした。今度は、しっかりメモを取りますので、もう1度教えてください。』とお願いしました。
- すると、その上司は、『しょうがないな。今度は忘れないでくださいよ。』と言って、やり方を教えてくれました。これで、Aさん
- は、やり方を理解することができました。
- しかし、仕事が終わって帰宅しても、Aさんは、少しばかりストレスが溜まってイライラしていました。

Step1 状況把握

- 状況を把握するため、「この状況では、誰がいましたか？」、「いつ起きたのでしょうか？」、「何が起きたのでしょうか？」、「何をしましたのでしょうか？」というように対象者に質問し、出来事や状況を確かめていきます。
- 更に、**どこが問題なのか、解決のために何を目標とすべきかを明確にします。**目標とすべきことも、文章や漫画にしてホワイトボードに書きながら進めます。

Step2 選択肢

- 対象者に、用紙にそれぞれとるべき行動の選択肢を、各自で書くよう指示します。ブレインストーミングですので、なるべく沢山書いてもらうよう促します。
- 次に、考えた選択肢を対象者一人一人に発表してもらいます。その際、
- **支援者は何も評価を入れず、対象者の発言の内容を要約してまとめて、**
- **内容を確認しつつ、そのままホワイトボードに書いていきます。**
- 対象者によって、選択肢の出やすさは異なります。多くの選択肢を自分で考え出すことができる者もいれば、ごく僅かな選択肢しか考えられない者もいます。その場合、ヒントとなる手がかりや、選択に要する時間、選択できる数等についてアセスメントもしていきます。

趣味に没頭する 会話をする テレビを観る 読書する 散歩する 入浴する(あつすぎない風呂、シャワー) 水泳をする	適度の量の酒(例:コップ1杯) アイスコア、ハーブティーを飲む 紅茶などで香りを楽しむ アロマをたく
落ちて自分で問題点がなかったか考えてみる	
最近、うれしかったこと、人に勧められたりしたことを考えてみる 今まで写真で楽しかったりよかったものを並べる+音楽+紅茶	
十分な睡眠	
会社を辞める	
理解する時間がかかることを伝える メモを取ってしなかったときにメモを取るようにつけてくださいと頼む	

結果予測

- ホワイトボードに書いた各選択肢を行った際の結果を対象者に聞いていきます。具体的には、
- (1)効果「その解決策で、望むものが得られるのか？」
- (2)現実性「それは、自分の力で実現できるのか？危険性はないのか？」の2点について、聞いていきます。
- この「効果」と「現実性」2点に関して、複数の対象者の意見を聞きながら、各選択肢を整理して、例えば○△×等でホワイトボードに記入していきます。このようにして、効果と現実性のあるものはどれかをメンバーで話合っていきます。

Step4 選択判断

- Step3の話し合いを基にして、各自が最も適切と思う選択肢を選ぶようにしていきます。
- まず、Step3で話された選択肢で自分の選択肢につけ加えたいものがあれば、1~2つ付け足しても良い旨を伝えます。
- 次に、対象者自身が記入した用紙の**選択肢に優先順位をつけた上で、最善策を選び出すように促します。その選択肢を選ぶと、どのように感じるか等も聞いていきます。**

Step5 段取り

- Step4で選び出した最善策について、**対象者各自で具体的な計画を立て、段取りを立てるように促します。**いつ、どこで、どのような手順で行うのか等を用紙に記入してもらいます。
- Step4とStep5が終了した時点で、対象者各自が選び出した最善策と段取りを1人1人に聞き、それをホワイトボードに書き出します。

趣味に没頭する ①帰宅 ↓ ②家事を済ます ↓ ③ストレッチ、呼吸法で安定させる ↓ ④コンディションをつくる(空調、音楽等) ↓ ⑤趣味の実行	メモを取ってしなかったらメモを取るようにつけてくれるよう頼む ①上司に会うのはいつかを考える ↓ ②お願いの仕方を練習する ↓ ③会ったら「言うぞ！」と決意する ↓ ④あとは考えない
---	--

知的障害を持つ自閉症の青年の事例

- 養護学校高等部3年に在籍
- 診断は自閉症
- 精神年齢は6歳10ヶ月(鈴木ビネーによる)簡単な受け答えが可能
- 肥満傾向があり、情緒的には不安定
- 強制されると物を投げつけたり、ガラスをたたく等の癩癩をおこしやすい傾向があった。

- 乗り物に興味があり、気に入ったカー雑誌の名前や車の名前をつぶやく癖があった。小遣いは対象生徒の要求に従って不定期に父母、祖父母、叔母から与えられており、主にそれは何種類ものカー雑誌の購入にあてられていた。
- 一人での買い物、値段の理解は可能であった。

(2) 仕事の選定

- ①各々の職場の人たちの仕事を調査
- ②その中で対象者が今の時点で可能な
- ③できそうな仕事をリストアップ
- ④指導者と職場の人たちの話し合いによって仕事内容を検討

	父	祖母	祖父	叔母
9:00 開店前準備	<ul style="list-style-type: none"> • 麺の計量 • だしをひく用意 • たれの用意 • 包丁を研ぐ • 麺をさく • 麺に串を打つ • 麺に白を入れる (素焼) 	<ul style="list-style-type: none"> • 米を洗う (研ぐ) • おしぼりを巻く • 漬物を切る • 漬物を皿に盛る • 赤だし・お吸物の薬味切り • 薬味をお椀に盛る • お米の炊飯 • お椀を用意 • お椀を移動する 	<ul style="list-style-type: none"> • おつまみもの作り • 魚をおろす • だし巻きの卵割り • だし巻きのくずをひく 	<ul style="list-style-type: none"> • 客室の掃除 • テーブルセット (メニュー、灰皿、楊子、山椒)
11:30 開店	<ul style="list-style-type: none"> • 麺を蒸す • たれをつけて焼く • 焼き上がった麺を切る <p>【おどん (うなどん)】</p> <ul style="list-style-type: none"> • おどんにたれをかけ、麺をのせる <p>【定食】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 箸置きを器に入れ、たれをかける 	<p>【おどん】</p> <ul style="list-style-type: none"> • どんぶりにご飯をよそす • お吸物や赤だしの薬味を切り、お椀に盛る (追加) <p>【定食】</p> <ul style="list-style-type: none"> • おつまみものを小鉢に入れる • だし巻きの器に入れ、だしの薬味をのせる • 赤だしの薬味を切り、お椀に盛る (追加) • だし巻を切る 	<p>【おどん】</p> <ul style="list-style-type: none"> • おどんにたれをかけ、麺をのせる • お吸物や赤だしをお椀にはる (よそす) <p>【定食】</p> <ul style="list-style-type: none"> • だし巻を巻く (焼く) • 赤だしをお椀にはる 	<ul style="list-style-type: none"> • お茶を入れる • おしぼり割箸 • 漬物 <p>→ 人数別</p> <ul style="list-style-type: none"> • 注文を受ける • 厨房に注文を通す (伝える) <p>【店内地下 (叔母)】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 出し物をする (出来上がり) • お茶を入れる (追加) • 引き物をする (食器の片付け)

初期の仕事内容

- ①お米とき
- ②おしぼり巻き
- ③漬け物用意
- ④薬味切り・椀盛り
- ⑤お米炊飯
- ⑥卵割り
- ⑦地下のテーブルセット
- 就労前は開店前の準備 (午前9時から1時間30分程度) を目標
- 全ての仕事が終わった後にはバイト代として日給500円が支払われた。

職場内での仕事選定のポイント

- 職場のニーズの聴取とリストアップ
- 毎日必要な安定した仕事を重視
- 時間と量と手順を明示化
- 一度に多くを導入しない
- できる仕事=任せてよい仕事ではない
- 職場内の適切なワークシェアリング
- 職場と本人の同意
- 視覚的に契約内容を明示する

契約書

() 月

() 時 () 分から
() 時 () 分まで はたらきます。

お給料は () 円 です。

名前 ()

(3) 課題分析

- 仕事のどの部分は遂行可能でどの部分でつまづいているかを評定できる
- 仕事の観察と職場の人たちの意見を参考に作成し、作成したものを職場の人に再評価してもらい細かな修正を重ねた。

「米とき」における課題分析

- ①バケツを出す
- ②米びつからバケツに米を入れる
- ③バケツを流しに運ぶ
- ④米を4回とぐ
- ⑤黄色い桶を流しにおく
- ⑥金ざるを黄色い桶にのせる
- ⑦米を金ざるにあける
- ⑧バケツに残った米をかい出す
- ⑨バケツを洗う
- ⑩バケツを片づける
- ⑪金ざるを台の上におく
- ⑫黄色い桶をしまう

炊飯

- 米の入ったさを調理台へ運ぶ
- おしゃくを出す
- 米をすくい、すりきりにする
- 炊飯器に入れる
- 米をすくい、すりきりにする
- 炊飯器に入れる
- 米をすくい、すりきりにする
- 炊飯器に入れる
- 米をすくい、すりきりにする
- 炊飯器に入れる
- おしゃくの裏についた米を落とす
- おしゃくに水を満杯入れる
- 水を炊飯器に入れる
- おしゃくに水を満杯入れる

炊飯（続き）

- 水を炊飯器に入れる
- おしゃくに水を満杯入れる
- 水を炊飯器に入れる
- おしゃくに水を満杯入れる
- 水を炊飯器に入れる
- 米をならす
- 炊飯器の蓋をしめる
- 切り替えスイッチを「入り」にする
- レバーを下におろす
- のぞき窓から火を確認する
- おしゃくを洗って片づける

漬物切り

- 冷蔵庫から漬物を出して調理台に運ぶ
- 水洗い
- きゅうりを斜めにきる
- こばちに入れる
- へたを捨てる
- 冷蔵庫から大根の漬物を出す
- 小皿を出して10枚並べる
- 大根をひと掴み入れる×10
- きゅうりを2個入れる×10
- 帳場に並べる
- あまったバットを冷蔵庫に入れる
- こばちを冷蔵庫にしまう

課題分析のポイント

- 職場での独自性を観察
- 職場独自の方針＝効率的でない場合がある
- スモールステップ化は具体的に
- 環境改善の指摘と話し合いによる修正

課題分析演習

- 課題1
 - カップ麺を作る
- 課題2
 - コピーを指定された枚数とってくる

記録用紙の作成

渡物用意

日付 () 名前 ()

きゅうりを調理台に運ぶ		
包丁を出す		
きゅうりを斜めにきる		
こぼちを出す		
きゅうりをこぼちに入れる		
へたを捨てる		
包丁を布巾で拭く		

記録の意義

- 対象者の困難部分が明確になる
- 情報を職場の責任者と共有できる
- →職場環境、作業内容の改善や変更を求める際の基準となる

その日の作業を明確に伝える

- お仕事表により視覚的に呈示する
- 最初はシンプルに徐々に高度化
- 日々変更を要する部分は()にして現場責任者に質問するように指導する
- 現場責任者や職場の人に対する行動のコントロールにもなる
- 意義について職場の人に十分な説明しておく

お仕事表

- お米あらい
- おしぼり巻き
- つけもの用意
- やくみ切りわんもり
- お米すいはん
- テーブルセット (地下)
- たまごわり

お仕事表

- お米あらい
- おしぼり巻き ()本
- つけもの用意 ()皿
- やくみ切りわんもり あかだし() おすいもの()
- お米すいはん お米()はい 水()はい
- たまごわり ()こ
- テーブルセット (地下)
- お給料 500円

お仕事表

お米あらい 水-を5回替りて、バケツに()はい入れる

おしぼり巻き ()本

つけもの用意 ()皿
しゅるい() ()

やくみ切りわんもり
あかだし()こ みつば、さんしょう を いれる
おすいもの()こ () を いれる

お米すいはん お米()はい 水()はい

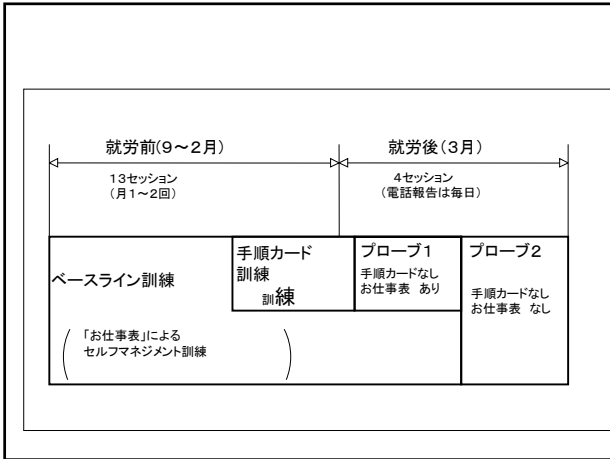
たまごわり ()こ

テーブルセット (地下)

テーブルセット (1階)


(4)セッティング

- 就労を予定している店（鰻屋）において行った。店は従業員5名で、すべて対象者の家族及び親族であった。作業は「テーブルセット」以外は店内の厨房において行われた


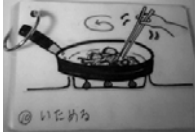


なくしていける援助と残す援助

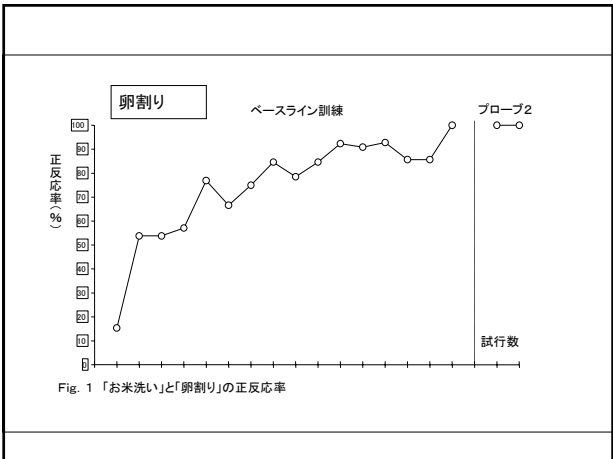
援助はなくしていけるものもあるが、その行動の獲得に非常に時間がかかったり、獲得が困難な場合は、その援助を残しておく（永久プロンプト）。

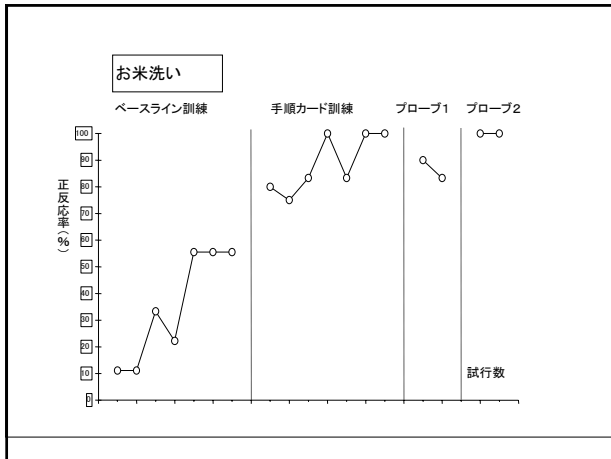


手順カード

- レシピカードのように特になくしていなくてもいい援助もある。





- 手順カードが必要な作業と不要な作業がある
- 本人のスキルアップにより、なくしていける援助となくしていけないものがある
- なくしていけるものでも安定には有効な場合がある
- 効率化と安定化のバランスから考える

- ### 就労後のフォローアップ
- 開店後のお昼の営業時にも1時間程度働く
 - 3月の給料：月末に月給で1万5千円
 - 開店前の準備の開始時間（出勤時間）を9時30分に変更
 - 仕事内容と勤務時間は対象生徒の様子を見ながら徐々に増やす
 - 暇なときには座らせる
 - 店後の仕事々に慣れさせていくという方針を指導者と職場の人たちと確認。

- ### 職場の人たちの様子の変化
- 事前
 - 祖母と母による過剰な指示
 - 事後
 - 不必要な指示の減少
 - 対象生徒にとって混乱の少ない指示のしかたで指導・援助
 - 職場の人たち同士で指示の仕方を注意しあう

参考文献

- 井上雅彦 1999
- 自閉症を持つ生徒に対する就労指導におけるセルフマネジメント手続きの効果
- 障害児教育実践研究,6,pp.29-36.(兵庫教育大学学校教育学部附属障害児教育実践センター)

- ### 支援の場
- 高等学校・特別支援学校高等部
 - 生活・就労支援センター
 - NPOなど
 - トレーニング・グループ
 - 余暇活動グループ
 - 自助グループ